石原さとみ、現場での悪評(あくひょう)…人を選んで態度変える、石原を苦手(にがて)な大女優も

「女子がなりたい顔」「キスしたい芸能人」「抱きしめたい（だきしめる）女性芸能人」など、さまざまなランキングでトップを総なめ（そうなめ　hengsao）にしている女優・石原さとみ。愛らしい(あいらしい)ビジュアルに親しみやすい性格でバラエティにもひっぱりだこだが、数年前までは代表作も特にあるわけでもなく注目されることはなかった。彼女が好かれる理由には外見に関する意見が多いが、なぜここまでの人気を石原が得るようになったのだろうか。

「チャームポイントであるぷっくり唇や太眉は、以前にはマイナスな部分として受けとめられていました。でも、彼女が2014年放送の連続テレビドラマ『ディア・シスター』（フジテレビ系）に出演した頃から、石原に対する同性の見方が変わり始めたのです。石原本人も、ファッションやメイクに興味を持ち出した頃らしく、衣装などにも意見を入れるようになりました。それまでは与えられた役をこなしていくタイプだったのが、意識的に見た目も中身も改造し始めていきました」（テレビ局関係者）

　しかし、石原に対して好感を持てる人だけではないようだ。世間では石原の人気は高いが、芸能界では“僻み”も影響してマイナスな印象を持つ人もいるようだ。ある芸能事務所の女性は、石原についてこう語る。

「バラエティでうちのタレントと共演した際に現場で一緒になったことがあるのですが、石原さんはプロデューサーに媚びるんです。人を選んで態度を変えるっていうか、そういうところは私たち年増な女には通用しないですよ。だから結構大女優の方とかで、石原さんを苦手だという方は多いです。僻みもあるのでしょうけど、まだ30くらいの女の子に嫉妬してもね……。単純に、演技は上手くないし外見だけで人気が出てるので、女優として認めないということではないでしょうか。少なくとも、役者として実力派でないとは思います」（芸能事務所関係者）

　インターネット上などでも「バラエティに出たときのカラ元気が怖い」「声がデカくて、品がない」など批判的な意見もあるが、人気者にはアンチはつきもの。今後、石原がアンチに負けずにますます飛躍していくことに期待したい。

M7．8の地震、2人死亡＝邦人被害情報なし―NZ

【シドニー時事】ニュージーランド（NZ）南島で14日未明（日本時間13日夜）、マグニチュード（M）7．8の地震が発生し、少なくとも2人の死亡が確認された。

　多数の負傷者も出ており、救助や被災状況の確認を急いでいる。

　日本の在クライストチャーチ領事事務所によると、「邦人が被害に遭ったとの情報は確認されていない」という。震源地を含むカンタベリー地方には邦人約3000人が住んでいるとみられる。

　沿岸部には一時津波警報が出され、最大で2メートルの津波が観測された。日本には津波の影響はない。

　M5を超える余震も続いており、多くの被災地で住民が避難している。道路が寸断され、停電も発生している。キー首相は震災対応のため、今週予定されていたアルゼンチン訪問を見送った。

　米地質調査所（USGS）によると、震源地はクライストチャーチの北方約90キロに位置するハンマースプリングス。震源の深さは約23キロ。クライストチャーチ付近は2011年2月、強い直下型地震に見舞われ、日本人留学生28人を含む185人が犠牲になった。

不法移民、犯罪者をまず送還＝壁はフェンスも利用－トランプ氏

【ワシントン時事】米国のトランプ次期大統領は13日放送のCBSテレビのインタビューで、1100万人超といわれる不法移民について、犯罪歴のある200万～300万人をまず強制送還する考えを明らかにした。

　残りの人々の扱いは国境警備を強化した後に判断すると説明した。

　トランプ氏はもともと不法移民全員を強制送還すると公約していたが、大統領選の途中から犯罪歴のない不法移民の扱いをあいまいにしていた。

　トランプ氏はインタビューで「数百万人を強制送還する公約は実行するのか」と問われ、「犯罪者、犯罪歴のある人々、ギャングのメンバー、麻薬密売人は国から追放する」と表明。ただ、「素晴らしい人々の扱いは国境を万全にしてから決定する。彼らはすごくいい人々だ」と語った。

　トランプ氏はまた、メキシコ国境に築く壁について、れんがやしっくいだけでなく、フェンスも利用する考えを示した。

　一方、トランプ氏は、大統領選を通じて過激な書き込みを続けたツイッターなどに関し「勝利を手助けしてくれた」と評価する一方、大統領に就任した後は「節度を持って使う」と約束した。インタビューは11日に収録された。（了）

トヨタ、3600億円で和解＝車の腐食めぐる集団訴訟―米

【ニューヨーク時事】トヨタ自動車が米国で販売した小型トラックなどをめぐり、防さび加工が不十分でフレームが腐食しやすいとして所有者らが補償を求めた集団訴訟で、トヨタが修理費など最大34億ドル（約3600億円）を負担する和解案に合意したことが12日、分かった。

　複数の米メディアが伝えた。

　トヨタの2016年9月中間決算は、円高が響いて5年ぶりの減収減益となっており、今回の負担が経営のさらなる重荷になる可能性もある。

　和解の対象となるのは、05～10年型の小型トラック「タコマ」と07～08年型の「タンドラ」、05～08年型のスポーツ用多目的車（SUV）「セコイア」の計約150万台。トヨタは自社負担で対象車を点検し、問題があればフレームの交換などを行う。

　報道によると、ロサンゼルスの連邦地裁に9日提出された和解案で、トヨタは法的責任や不正行為を認めなかったものの、声明で「車の品質や信頼性に責任を持って訴訟を解決できることは喜ばしい」とコメントした。